

# 国語辞典における言語の運用にかかわる情報

— その現状との可能性 —

The Possibility of Japanese Monolingual Dictionaries give Native User:  
— Information in the Practical Use of Japanese —

大塚みさ

日本語コミュニケーション学科准教授

## 抄録：

一般読者を対象とした国語辞典の最近の動向の概略を整理して示した上で、国語辞典が提供できる言語運用情報と現代の読者のニーズとを、辞典におけるさまざまな工夫の具体例分析を通して探究する。中でも対人コミュニケーションにおいて留意すべき感情表現や含意に関するいわば語用論的な情報が有用と考えられるが、媒体を問わず国語辞典の使用頻度自体が低下した世代への発信力はまだ十分とは言えない可能性が指摘できる。

## Summary：

This paper asks whether general Japanese monolingual dictionaries can give enough usable information for the practical use of the language, by showing the latest trends in usage. What is particularly important seems to be information that might help personal communication, such as the connotations of certain combinations of words in particular contexts or situations. Dictionaries are certainly trying all sorts of ways to improve their pragmatic information. These days, however, users, including students, seem not even to notice this, since they are tending less and less to look words up in dictionaries, whether printed or electronic.

キーワード：国語辞典、語用論、含意、用例、言語運用力、コミュニケーション能力

Key Words：Japanese monolingual dictionaries, Pragmatics, connotation, examples,  
practical use of a language, communication skills

## 1. はじめに

小説の題材に取り上げられたのを機に注目の集まる国語辞典だが、その販売状況は決して芳しくはない。冊子体の2010年の推定販売部数は650万冊で、1998年の推定販売部数1,200万冊からほぼ半減している<sup>1)</sup>。2008年との比較では微増しているものの、そこには「辞書引き学習ブーム」で売り上げを伸ばした小学生向けの国語辞典と漢字辞典の影響が大きく、これらの売れ行きも既に減少傾向にあると指摘されている。また、いわゆる電子媒体版の辞書(IC内蔵型)も2007年のピークを境に出荷実績が下降している。

国語辞典自体は、それぞれに新たな特色を加えて改訂されている<sup>2)</sup>。しかし、それに対する一般読者、特に日本語力の低下が指摘される学生世代の認識はどの程度なのだろうか。現在の学生世代の学習環境を考慮に入れた上で、日本語力向上のための辞書利用の可能性について考えてみたい。

本稿では、一般読者を対象とした国語辞典の最近の動向の概略を示し、そのうち言語運用面に有用な情報を抽出して分析を加える。さらに英和辞典の掲載情報も参照して、国語辞典への適用可能性を探り、現代の読者のニーズを探る手がかりとすることを旨とする。

## 2. 国語辞典の傾向

まず、本稿で扱う国語辞典を限定しておこう。倉島(2000)は高校生から一般社会人が使用することを前提に編集された辞書は使用目的や規模によって収録語数が異なる点に触れ、『日本国語大辞典』等の大型辞典を別とした以下の3分類を示している<sup>3)</sup>。

- |          |          |         |
|----------|----------|---------|
| ①中型国語辞典  | 20万語以上   | 総合国語辞典  |
| ②準中型国語辞典 | 13万～16万語 | 準総合国語辞典 |
| ③小型国語辞典  | 5万～8万語   | 日常用国語辞典 |

倉島(ibid.)は小型辞典の特長として新語や新語義の採録が早いことをあげ、「辞書にはそれぞれ固有の性格があって、必ずしも大は小を兼ねない」と述べている。この「大は小を兼ねない」という点は、学生達の多くが所持する搭載辞典の規模を意識しにくい電子媒体版の辞書においてはさらに深刻である<sup>4)</sup>。

中型・準中型辞典は現代語に加えて古語や百科語、固有名詞を掲載しているが、現代語に注目する本稿が扱う範囲は高校生から一般の日本語母語話者を対象とした小型国語辞典に限定する。ただし必要に応じて中学生を対象とした国語辞典についても触れることにする。

大塚(2013)は2005年以降に刊行・改訂された小型国語辞典の傾向を、以下の5点に整理している。

- ①見出し語が持つ情報 —アクセント・表記・語種—
- ②意味情報
- ③ことばの運用にかかわる情報
- ④敬語と正誤・規範意識

## ⑤収録語

これらのうち、本稿で注目したいのは②～④である。

②には、意味記述や類義語の意味の違い、コロケーション情報などが含まれる。辞書の改訂においては、見出し語の追加だけでなく語義の追加や退廃、また既存の語釈の書き換えや、用例の差し替えが行われることもある。これらは必ずしも意味の変化が認められる場合とは限らず、より精度の高い記述へと改められる場合が主である。〈岩波〉は前の版の記載で「満足すれば満足できるもの」についても見直しを行い、「読者の理解・活用に大いに益する」ことを目的に語釈の改訂と用例の増補を施している。用例については、特に語感的な文学作品からの用例を豊富に加えている。また、〈新明解〉も感覚的な語の記述の改訂や語感的な情報の増補を行っている。

類義語の意味の相違に関する情報もこの一種であるが、これを一覽で示す辞書は従来の〈現国例〉に加えて〈日本語新〉や学習辞典にも見られるようになっており、表現場面を想定したニュアンス面への言及も増えてきた。また、〈現国例〉は6版から和語に対して漢語の類義語を挙げているが、これは次の③にかかわる情報として有用だと考えられる。

③はことばの運用に有用な情報、言い換えれば表現時に役立つ情報である。これは従来中型辞典よりは小型辞典、そして小型辞典の中では一般向けの辞典よりも中高生の学習用辞典としての性格が濃い辞典に多く見られる特色であったといえるが、この点にも倉島(2000)の「辞書においては大は小を兼ねない」という指摘があてはまる。

④の敬語と規範意識は、若い世代の意識が比較的高い項目である。特に敬語については、③と同様に言語運用面に関する情報と言える。「敬語の指針」(2007年2月文化審議会答申)では敬語の分類が従来の3分類から5分類へと改められたが、これをそのまま採用する辞書は少なく、従来の扱いを踏襲しながら柔軟な対応をする辞書が多い。〈明鏡〉は「誤用索引」「敬語索引」「気になることば索引」を収めた別冊付録『問題なことば索引』を作成し、これらが記述された見出しとページを掲載している。

### 3. 国語辞典における言語運用面に関する情報

#### 3.1 【運用】欄(『新明解国語辞典』)

〈新明解〉は、6版(2005)より語釈の末尾に【運用】欄を設けている。以下は7版(2012)の「編集方針」所収の説明である。

日常生活に用いられる表現に関する運用上の情報を示した。待遇表現にかかわる用法を中心に、必ずしもその語の一般的な意味とは一致しない側面や含意された意味を取り出し、対人関係にもたらすプラスマイナスの表現効果を具体的な用法を明示しながら解説を行った。

同序文には、代名詞「あなた」を例に、単に「自分と同程度の相手を軽い敬意をもって指す言葉」といった語釈からはすぐには導き出せない、「男性が目上の人や初対面の人に用いると、見下したような印象を与えやすい」といった特徴を記したこと、そしてそれが「語用論(pragmatics)」の分野の課題であることが記されている。【運用】欄が設けられている見出し語

の具体例は以下の通りである。なお、分類は辞書中の記述をもとに筆者が行ったものである。

- 指示語 (「あそこ」「あちら」「あっち」「あの」「あれ」)  
忌み言葉 (「あたり」「返す」「しめる」「散る」「続く」)  
呼称 (「お母さん」「奥さん」「おまえ」「旦那」「父さん」)  
比喩 (「アナログ」「ほころび」「曲げる」)  
挨拶 (「縁」「お世話」「海容」「くりあわせる」「幸い」)  
含意 (「けっこう」「できる」「のに」「乱心」「笑わせる」)  
婉曲表現 (「いかが」「遠慮」「調整」「役」「容赦」)  
その他 かけ声 (「大統領」「立ち会い」) 感動詞的 (「うそ」「かわいい」)

【運用】欄が設けられる前の5版におけるこれらの扱いは、おおよそ以下の4つに分類できる。

- 言及なし (「あいにく」「とりとめ」「とんでもない」)  
一般語義として記載 (「ご苦労」「おひきずり」「身分」)  
特定の語形・句形を子見出しに記載 (「お気の毒様」「知ったことじゃない」)  
補足説明・コラムとして記載 (「百姓」「屋・家」)

これらについては現行の他の辞書においても、言及自体がないか説明やコラムとしての注記として対処されるケースが大半である。この一例として「お構い」を挙げよう。(第1義は江戸時代の語義であるため割愛する。)

- (1) 2 [多く、「一(も)無く(無しに)」の形で] その人(その場)の状況に何ら配慮もせず  
に振る舞う様子を表わす。

「人の事は一無しに言いたいことを言う」「一も無くちらかし放題だ」

【運用】 1 「どうぞお構いなく」の形で、たいした客ではないのだから気を使わないように  
と、訪問客が挨拶の言葉として言う。

- 2 「何のお構いもいたしませんで」などの形で、辞去する客に対してもてなしが不  
十分だったと謙遜するという挨拶として用いられる。 (新明解)

この項目は他の辞書においては名詞「お構い」の用例として記述されるが、以下のように表現  
主体や意図についての言及は見られない。

- (2) 「構い」の尊敬・謙譲・美化語。そこにいる人に気を配ること。特に、来客に気を使って、  
もてなすこと。

「どうぞ一なく」「何の一もしませんで」「人の迷惑など一なしだ」

・多く打ち消しを伴う

〈明鏡〉

〈新明解〉の【運用】欄は「ほんの気持ち(だけ)ですが」や「諸般の事情により」などの句表現  
には助詞、助動詞や接尾辞を加えて「『…………』(など)の形で」と説明する。これらのようないわ  
ゆる決まり文句では、慣用連語類とは異なり辞書の子見出しに立てられることは少ないため、

【運用】欄のような扱いは有意義といえるだろう。

次に動詞「かじる」の記述を見よう。いずれの辞書も第1義には「物をかみとる」があげられており、以下はすべて第2義である。

- (3) 2 物事をほんの一部分だけ学ぶ。

「ロシア語なら少しー・ったことがある」「聞きー・習いー」 〈明鏡〉

- (4) 2 物事の一部分だけを学んだり知ったりする。

「ラテン語は少しかじっただけです。」 〈日本語新〉

- (5) 2 [1が多く物の一部分をかみ取ることから] 必要な知識や技能の、それだけでは役に立たない一部分を身につける。

「ちょっとかじった程度のフランス語ではないか」

【運用】「少々かじっただけです」などの形で、自分の知識や技能を中途半端なものだと謙遜して言うのにも用いられる。 〈新明解〉

いずれも語釈に「一部分」を含んでおり、用例は以下のようなパターンで集約することができそうである。

「少し／ちょっと + かじった + だけ／程度」

しかし、「～を(少し)かじっただけ」という子見出しが立てられることはない。この種の表現は多く存在するが、いわゆることわざ等と比較するとまとめて網羅的に学ぶ機会は少なく、その分個人差も広がりやすい。辞書の用例には頻度の高い典型的な結合例が挙げられることが多いが、一般読者の目にそれと臨時的なものとの区別が明確なケースばかりではない。コロケーションレベルの結合も含めて、読者の表現力向上に有用な情報が自明であるような記載方法が追求されることが望ましい。なお、学習者用英英辞典や英和辞典の中には、定型的表現部分を太字で示すものがある。以下は動詞 *consider* の語釈の一部である。

- (6) 1. to think about something carefully, especially in order to make a decision

[.....]

*a carefully considered response* 〈OALD〉

先に挙げた(3)～(5)は、いずれも例文に主語がない。〈新明解〉の用例は相手または第三者が主語であり、他は一人称が主語である。〈新明解〉の【運用】欄には「自分の知識や技能を…謙遜して」とあるが、これは重要な情報である。言及の対象が話し手自身に関するかどうか別の人が、またその人が親しい人かどうかによってその含意が生じるかどうか、そして含意の内容そのものも違ってくるためである。筆者が抽出できた範囲では、含意として言及されているケースのほとんどはネガティブなもので、自分について使えば謙遜となるが相手に対しては皮肉となるものが目に付く。また、たとえば自分の行為の謙遜に相当する「ささやか」も、「彼の貢献はささやかだったね。」などと用いれば別の含意が生じる可能性がある。語の使い方、あるいは文脈次第でさまざまな語用論的意味が生じることを辞書が完全に網羅することは難しいと言えるだろう。

「忙しい」の【運用】欄には、他の辞書にはない以下の記述が見られる。

- (7) 口頭語で、「(今)忙しいから(ので)」などの形で、相手の依頼や勧誘などを迷惑だと思っ

て断わるときの表現としても用いられる。

(新明解)

このような語用論的情報は、語釈の守備範囲ではなく、中学生用国語辞典を含めた他の辞書には記載されていない。この種の例は一定の年齢に達した日本人母語話者であれば共有している情報でもある<sup>5)</sup>。それでも辞書である限りは丁寧に言及していく必要がある。

### 3.2 表現者の感情のプラスマイナス (『小学館新日本語辞典』)

〈日本語新〉はその特色を「日本語を理解するという面だけではなく、むしろ表現する際に大きく役立つもの」と説明している。そして、それを実現するための特徴として以下があげられている。(項目番号は便宜的に1、2、3…で示す。)

1. ことばの意味の説明…分かりやすく 分析的に記述 数多くの用例
2. 語種の異なる類義語の使い分け (用例に則して使用の可否を説明し、異同を明確化)
3. 主な動詞の項目に、助詞の情報
4. 敬語の用法
5. 場面場面に適切な表現 特に形容詞、形容動詞、副詞の表現に伴うプラスマイナスの評価を記号表示
6. アクセント

このうち、従来の辞書にはない新しい特徴として5を取り上げたい。同書の凡例には以下のようにある。

⑧形容詞、形容動詞、副詞及び一部の動詞などの語義解説のはじめ、プラスマイナスの評価を記号で示した。

1. 語の微妙なニュアンスを示すために、また、より適切な日本語で表現するための助けとして、誰がどこで使用しても、その語を用いるときにプラスマイナスの評価 (対象を賞賛したり、非難したりする感情) を伴うと思われる語義に、プラスは○<sup>6)</sup>、マイナスは△の記号でその評価を示した。これによって、たとえば、△を付した語義でその語を使うと、対象を非難したり軽蔑したりするニュアンスを帯びる場合があるので相手に対して失礼になり、普通の会話では、使用を避けた方がよいことになる。
2. ここでは、その語にこもる表現者の感情のプラスマイナスについてのみ○△(表情)を示し、語の意味だけのプラスマイナスには○△は示さなかった。また、日常的に用いる語のみに示した。

この一例として形容詞「かたい」のうちの2義を示す。

(8) 4 △表情、感じ、考え方などが、角張っていて、柔軟性に欠けるさま。(例) かたくこわばった表情／聴衆の前でかたくなる／頭の固い人／文章がかたい

(9) 5 ○失敗する心配が少なく、確実であぶなげがないさま。また、浮ついたところがなく、堅実であるさま (例) 80点とれば合格はかたい／身持ちの堅い人／かたい商売

しかしながら、「日常的に用いる語」の基準は明確ではなく、印が付されていない場合にプラスマイナスの程度が低いのか、あるいは「日常的に用いる」という条件を満たさなかったものな

のかの区別が付かないこともある。以下は「寒心」の語釈であるが印は付されていない。

- (10) 文(語) 状況があまりひどくてぞっとすること。(例) 敬語の誤用の増加は寒心に堪えない／寒心すべき風潮

また、これらの符号は使用にあたって注意すべきであるということを示すのみであり、それをどのように言語運用に生かすかという点については言及されていない。また、先の〈新明解〉と同様に、○がついても使い方を誤れば皮肉として伝わってしまう可能性があることは否めない。

### 3.3 学習用辞典の例

倉島(2000)は先に挙げた社会人向け国語辞典(①～③)に対して、小中学校の国語教育の場で用いられることを意識して編集される辞典を以下のように分類している。

- ④中学生向け国語辞典 4万～6万語  
⑤小学生向け国語辞典 2万～3万2千語

冒頭で述べたように本稿の対象は社会人向け小型国語辞典であるが、これらのうち特に中学生向けの国語辞典に語の運用に関する情報を掲載するものがあるので、若干触れておきたい。

〈新修〉は、「位相の注意」として「使う場面と相手を考え、注意して使ったほうがよい語」について3種類の表情を模した円形の符号<sup>7)</sup>を語義別に付けている。これらを便宜的に④～⑥に置き換えて以下に示す。

- ④友人同士でおしゃべりをするときなどには使えるが、目上の人や文章には使わない、くだけたことば。例「戯言」<sup>たわごと</sup>「ゆする」「おおっぴら」「とっつき」

- ⑤友人同士でも使わない方がよい、あまりよくないことば。

例「おんぼろ」「ごねる」「札びら」「まるつぶれ」

- ⑥現在はあまり使われない、古い感じのすることば。文章には使われることがある。

例「かしこ」「寿ぐ」<sup>ことほ</sup>「停頓」<sup>ていとん</sup>「捕り物」「ひさぐ」

⑥は位相だけでなく、語の意味自体も考慮に入れられているように見受けられる。また、⑥には「委細」等の文章語が数語含まれており、対象が中学生とはいえ「古い感じ」とは断言できないものもあるといった点は否めない。しかしながら、語の運用に欠かせない位相的な情報の存在を知り、意識する機会を与えるという点で大変有益であることは間違いない。

## 4. 英和辞典の例

第二言語あるいは外国語という点で、英和辞典は必然的に語の運用に関わる情報を国語辞典よりも早い段階から掲載している。

英和辞典のコミュニケーション情報を見てみよう。

〈OLEX〉の一つの特長は、その前身に当たる辞典(『レクシス英和辞典』)よりも「発信志向」を強めている点にある。「英語学習は単語やフレーズにとどまるのではなくて、文、さらに会話・文章へ向かうべきである」という(編集陣の)主張を具体化するために加えられた4点の工

夫のうち、語用論的情報を中心とした情報を掲載した「コミュニケーション情報」についてみてみよう。本辞書中の以下に該当する箇所にはハートの符号が付されている。

- ①言外の意味
- ②発言そのものが、謝罪、非難などの行為となるもの。
- ③配慮表現 a) 押し付けがましさを避けるもの b) 積極的に相手に働きかけるもの
- ④日本語の訳語にかかわるもの
- ⑤文化背景などの違いが関わるもの
- ⑥話者の態度
- ⑦社会言語学的情報
- ⑧仕草などを表す表現に関するもの

英和辞典特有の情報である④や⑤を除く項目は、見方によっては国語辞典にも有用といえる。*gentleman* には以下の注記と用例が見える。(ハートの符号は#で代用する。)

- (11) 2 男の方、殿方 (#その場にいる男性に対する丁寧な言い方)
- (12) (語義1「紳士」の用例) He is quite a gentleman. 彼はたいした紳士だよ (#ときに皮肉) 先の〈新明解〉の「忙しい」に相当する例として *busy* の用例の注記を見よう。
- (13) I'm sorry I'm busy now. I'll call you later. (#仕事など真にやむをえない事情で「手が離せない」場合は *tied up* を用いる方が誤解を招きにくい)

語義に対してだけでなく用例にもマークが付いている点、つまり語の運用場面を想定して情報を与えている点に注目したい。同辞書はこの情報について2ページにわたる解説を掲載しており、「語用論能力」については「(より具体的には) 個々の語、文、話し手と聞き手の関係、場面、話の内容等を踏まえて、適切に言語を使用し、かつ、解釈する力」と説明している。さらに、この能力は母語の場合は「日常の言語使用を通じて自然に獲得できることが多い」のに対して、文化的背景の異なる外国語の場合には意識して習得する必要があると述べられている。母語話者向けの国語辞典にはここまでの情報は要求されていない。しかし、名称を「国語辞典」ではなく「日本語辞典」とする〈日本語新〉のように、これまでとは異なるスタンスを示す国語辞典も見られる<sup>8)</sup>ことから、英和辞典におけるこの種の情報およびその提示法について参照していくことは有意義であろう。

## 5. おわりに

以上、本稿では最近の小型国語辞典における語の運用にかかわる情報の提示方法について具体例分析を通して探求した。諸情報の中でも特に、対人コミュニケーションにおいて留意すべき感情表現や含意に関する情報は有用性が高く、複数の辞典が様々な工夫を凝らしてこれを記載している点が確認された。また、英和辞典が国語辞典に先駆けてこの種の情報提示を行っている点にも着目し、提示される情報および提示方法が国語辞典にも応用できる可能性を探った。

しかしながら、冒頭で述べた通り冊子媒体辞書の販売部数は低下しており、IC内蔵型の電子媒体辞書の出荷台数も下降傾向にある。一方でスマートフォン向けの辞書アプリの種類自体は年々



増加している。この点に着目し<sup>9)</sup>、現在学生を対象とした使用実態調査を行う準備を進めている。

筆者はこれまでに学生の辞書利用の意識調査および実態調査を数回実施しているが、その調査結果から媒体を問わず辞典の使用頻度は決して高くはないと推測される。また、本稿で注目した語の運用にかかわる情報の有用性や辞書側の工夫は、学生を含む若い世代の読者に十分発信されてはいる可能性も十分ありうる。これらを今後の課題としてさらに調査を行い、現代の読者のニーズと辞書のありかた、および有効な辞書活用方法について考察を進めたい。

## 注

- 1) 全国出版協会出版科学研究所編 (2013) p.142
- 2) 大塚 (2013)
- 3) 倉島 (2000) p.64
- 4) 大塚 (2006) p.126-127
- 5) 仲 (1990) p.170
- 6) ○、△の中には表情が書き込まれている。○は笑顔、△は困惑した表情である。
- 7) ㊤は楽しそうな表情、㊦は困惑した表情、㊧は老人の顔である。
- 8) 野村 (2011) p.19
- 9) 2013年9月現在、小型国語辞典では〈新明解〉〈明鏡〉〈三省堂〉〈岩波〉、中型国語辞典では『大辞林』『大辞泉』『広辞苑』をダウンロードして使うことができる。

## 参考文献

- 大塚 みさ (2006) 「学生の辞書利用の実態についての小調査 2—言語能力向上への糸口をさぐって—」『実践女子短期大学紀要』27、pp. 117-128 (横 pp.1-10).
- (2009) 「連語とその周辺—国語辞典における扱いを中心に—」『歌子』17、pp. 191-200 (横 pp.1-10).
- (2013) 「最近の国語辞典の新傾向」『日本語学』32-2、pp.38-47.
- 倉島 節尚 (2000) 「語数をめぐるせめぎあい」『月刊言語』29-5、pp.64-69.
- 野村 雅昭 (2011) 「21世紀の国語辞書」『語彙・辞書研究会第40回研究発表会』資料集、pp.12-19.
- 仲 真紀子 (1990) 「会話」『講座 新・児童心理学講座 6 言語機能の発達』金子書房.
- 山本 康一 (2013) 「電子辞書の意義と今後」『日本語学』32-2、pp.48-61.
- 全国出版協会出版科学研究所編 (2013) 『出版指標 年報 2013 年版』全国出版協会出版科学研究所.

## 辞典類 (〈 〉内は本文中での略称)

- 柴田武他編 (2012) 『新明解国語辞典 第7版』三省堂 (〈新明解〉)
- 中道真木男編 (2012) 『ベネッセ新修国語辞典 第2版』ベネッセ (〈新修〉)
- 水谷静夫他編 (2011) 『岩波国語辞典 第7版新版』岩波書店 (〈岩国〉)
- 北原保雄編 (2010) 『明鏡国語辞典 第2版』大修館書店 (〈明鏡〉)
- 同辞典編集部 (2006) 『現代国語例解辞典』小学館 (〈現国例〉)
- 松井栄一編 (2005) 『小学館日本語新辞典』小学館 (〈日本語新〉)

花本金吾他編 (2008) 『オーレックス英和辞典』 旺文社 (〈OLEX〉)

Oxford Advanced Learner's Dictionary. (8th edition.) <http://oald8.oxfordlearnersdictionaries.com/> (最終アクセス 2013年9月、〈OALD〉)